



昭和43年頃の追浜駅周辺



現存する弥勒菩薩



現在は取り壊された釈迦如来

. Y O K O S U K A C I T Y .

～追浜地区の景観変遷～

■追浜駅周辺

下の写真は昭和43年頃の追浜駅前風景です。追浜駅が開業したのは昭和5年4月、開業当時の駅周辺は寂しい所だったようですが、その後商店街が構成され始めました。

「追浜」の名の由来は昔、現在の追浜駅のある場所から東のはずれにあった白砂の海岸が「追い浜」と呼ばれていました。明治43年に官有地として海軍に買収され、大正5年横須賀海軍航空隊が開設されたことによって「追浜」の名が有名になり、広く知られるようになったそうです。

近年、駅前商店街の空き店舗活用事業として、ワインの販売や地域交流店舗を作り、まちの逸品としてまちおこしのきっかけになればと、大学（関東学院大）と地域と行政で新たなまちづくりを実践する「追浜こみゅに亭&ワイナリー」の施設を誕生させるなど、まちの活性化に取り組んでいます。

横須賀市景観推進課 佐藤宗則



昭和43年頃の追浜駅周辺



現在の湘南鷹取団地

■鷹取山

鷹取山に行くには、逗子側からは樹木に囲まれた尾根伝いに険しい山道を45分ほど歩きます。京急線追浜駅からは、切り立つ石切り場付近まで車で行くことができます。

標高139m、山頂の露出した岩場から、遠くは横浜港、近くは夏島、米軍基地、追浜、田浦の眼下に広がる湘南鷹取団地や、谷戸と三浦半島の山々が見えます。

「横須賀こども風土記」を見ると、石切り場には明治中期から昭和初期のコンクリートの出現まで、多くの人が働いたと書かれています。

岩は凝灰質砂岩に分類され、柔らかく加工しやすく耐火性能があります。海岸の埋立てや擁壁、古民家の基礎、腰壁、かまど等需要も多く、東京、鎌倉、横浜にも運ばれ広く利用されました。石切り場で働く人も300人はいたそうです。

その後、京浜急行の開通に伴い、ハイキングやロッククライミングができ、石切り場跡に磨崖仏もある鷹取山は一躍観光地になりました。

三浦半島で他の石切り場は、西部地域の佐島石採石場があります。ここも建築、土木資材として地域を支えました。これらは石の特性で、いずれも切り出された石表面は風化し、こけむし、大変風流な趣があります。訪ね歩くと面白いと思います。

(社)神奈川県建築士事務所協会 若命陽子

■鷹取団地（湘南鷹取）

高度成長期、昭和32年に西武鉄道が所有するところとなった、鷹取山一帯132万平方メートル（約40万坪）は、当初ゴルフ場にするという話もあったそうですが、昭和40年頃から50年頃にかけて造成され、鬱蒼とした奥深い山容は閑静な住宅地へと姿を変えました。

この団地の背面に、磨崖仏（弥勒菩薩・釈迦如来）が彫られていましたが、宅地造成の過程で釈迦如来は取り壊され、現在は弥勒菩薩のみが残っています。

東京や横浜への通勤圏であり、市内に存在するほかの住宅地に比べ、広大な住宅が多く、整った景観なども湘南鷹取の特徴です。

開発から約40年経った今、この地も高齢化が進み、65歳以上の人口が30パーセント（平成20年4月旧住民基本台帳より）を占めており、横須賀市の23.2パーセントに比較すると7.1ポイント上回るところです。

横須賀電気工事協同組合 萩原立己



昭和51年頃の湘南鷹取団地



取り壊された釈迦如来